

福岡市設計測量業協会の「平成31年賀詞交歓会」開く
 新年の決意を新たに、業界の発展とインフラ整備で次の福岡づくりへ



測量業界の発展と次の福岡づくりへ、和やかに歓談した「平成31年賀詞交歓会」

(一社)福岡市設計測量業協会(福澤一博会長)の「平成31年賀詞交歓会」は22日、福岡市のグランドハイアット福岡で開催した。会員や賛助会員、来賓として福岡市の中園政直副市長と幹部職員、区役所幹部、国土地理院九州方測量部の後藤勝広部長、日本測量協会九州支部の上床隆彦支部長、国交省九州地方整備局企画部の伊藤浩和建設専門官、福岡市議会議員の顧問団、関係団体長ら関係者約120人が出席し、これからの福岡づくりと業界の更なる発展・飛躍に向けて、新年の決意を新たにした。

冒頭、主催者挨拶に立った福澤会長は「昨年、平成30年は全国で多くの災害が発生。福岡市でも7月豪雨災害が発生



主催者挨拶の福澤会長



来賓挨拶の中園副市長

し、我々の協会も災害協定に基づき、早期復旧に向けての迅速な支援対応を行った。なんとか災害査定も無事に終わり、福岡市や市民の皆様の期待に応えられたのではないかと思います。「我々設計測量業界だけでなく、土木業界全体が人手不足であり、土木に対する若い人たちの関心が薄く、大学、高校、専門学校の学生の入学者も少ないのが現状です。昨年、一昨年と全国で続きました災害復旧・復興事業で、土木に対し、少しでも興味を持っていただき、我々と発注者の方が日夜、努力している姿をPRしていきたい。協会としても、これらの広報活動を支援し、新規入職者を増やして、業界の担い手を育てていきたい」などと抱負を述べ、さらに「福岡市で

橋梁が落ちて、通行止めになるなどは絶対にあってはならない、インフラ整備に対する市民の目を向けて頂き、土木業界が元気になるように頑張っていきたい」との決意を示した。

このあと、福岡市幹部職員の来賓紹介があり、代表挨拶の中園副市長は「平成もあと数か月、昭和の64年間に比べると、平成は瞬く間に過ぎ去ったように思います。僅か30年ですが、福岡市にとっては、本当に貴重な30年であったと思います。この30年間で約40万人の市民が増えたということになります。これだけ市民が増え、都市が活発になったのも、皆様と行政と、民間の皆様が手を携えての結果です」と謝辞を送り、「今、人口が約160万人、次の30年でまた40万人が増えたといえますと、次はいよいよ200万ということで、200万になれば押しも押されぬアジアの大都市になるのではないかと、200万という数字は決して夢ではありません。この勢いを止めず、皆様と官民一体となりながら都市づくりを進め、次の世代に200万都市として福岡市を送り届けたいと思います」と大都市実現に向けての



福岡市の幹部職員紹介



来賓紹介と挨拶の後藤部長（中央）



顧問団紹介と挨拶の国分団長（中央）

皆様と連携して進めていきたい」と挨拶。続いて、顧問団の福岡市議会議員4人（今林ひであき市議、大森一馬市議、国分徳彦市議、福田まもる市議）の紹介。団長の国分市議は「業界で若手を育てるためには、仕事がないと行かない。協会員は、都市づくりの基礎の仕事をしており、福岡市で何かあると、いの一番に汗をかくのが皆さんです」と会員優先指名の配慮を要望した。

引き続き、今林幹事長（市議会顧問団）の乾杯の発声で、開宴。次の福岡市づくりと元気いっぱいの業界発展に向けて、和やかに歓談した。

思いを述べた。

また、来賓の国土地理院の後藤部長、日本測量業協会の上床支部長、九州地方整備局の伊藤建設専門官が紹介を受け、代表して後藤部長は、測量技術をめぐる現状や今後の動向などを報告し、「地理空間情報が暮らしや経済、生産活動など、いろいろな場面で使われることをまずしっかりと伝える取り組みを



乾杯発声の今林幹事長